

越生町の概要

越生町は埼玉県のほぼ中央、都心から 50 km 圏に位置し、北西は比企郡都幾川村、北東は比企郡鳩山町、南東は入間郡毛呂山町、南西は飯能市にそれぞれ隣接している。秩父山地と関東平野の接点にあり、まちの中央を東西に貫流する越辺川とその支流によって、地形の変化に富んだ緑豊かな自然と四季それぞれの景観に恵まれている。江戸時代から出荷されていた越生の梅は、明治になると観光梅林として注目を浴び、大正 12 年に田山花袋が「東京近郊一日の行楽」という随筆の中でこの梅林をはじめ、越生の風景を取り上げている。越生といえば梅林というほど「越生梅林」の知名度は高く、町内には約 25,000 本もの梅の木が植えられており、関東三大梅林の一つに数えられる。また、12 種類約 10,000 本のツツジが咲く五大尊つつじ公園や約 15,000 株のアジサイが植えられているあじさい山公園等の名所も多く、平成 13 年には社団法人日本観光協会主催の「花の観光地づくり大賞」を受賞した。

町域は東西約 9.7 km、南北約 7.9 km、総面積 40.44 km²、そのうち山林が約 60% を占める。町の南東部に位置する市街地の中心はその昔「今市村」と称し、鎌倉時代の初めから戦国時代に至るまで周辺一体は越生氏の所領であった。明治 6 年に「越生村」と改め、明治 22 年の町村制施行により周辺 8 ヶ村と合併して「越生町」となり、さらに昭和 30 年 2 月、町村合併促進法により「梅園村」と合併し現在の町域となった。平成 17 年 1 月 1 日現在の人口は 13,816 人、世帯数は 4,774 世帯であるが、近年は人口がほぼ横ばい、世帯数が微増傾向で推移している。

交通は、町の東部を JR 八高線と東武鉄道越生線が縦断しており、JR「越生」駅を利用して高崎・八王子方面へ、また東武「越生」駅・「武州唐沢」駅を利用して坂戸方面へと通じている。坂戸駅で東武東上線に乗り換えると池袋駅へは約 1 時間 20 分である。バス便は、越生駅から越生梅林や厚生年金休暇センター等へ川越観光バスが運行している。道路は、JR 八高線に沿って南北に走っている主要地方道飯能寄居線を軸として、飯能寄居線越生バイパス、東松山越生線、越生長沢線が派生している。

主な産業は農業で、以前は米や麦のほか養蚕・絹・絹織物の生産が盛んで、明治時代から昭和初期には絹市場として栄えていた。現在は梅・ゆず等の特産物の生産に力を入れていて、商品価値を向上させるための新技術の導入や産地体制の強化により経営の安定化に努めている。商工業は中小零細企業が多く、町役場方面に向う県道沿いに既成の小売店舗が建ち並んでいる。平成 3 年には越生駅東側の越生東地区にヤオコーが進出した。

町は現在、第四次越生町長期総合計画に基づき、基盤の整備、福祉の充実、産業の振興、教育と文化の向上、効率的な行財政運営を展開しており、西和田・河原山土地区画整理事業と上野東土地区画整理事業が行われている。今後はふれあい健康センター「ゆうパークおごせ」等を利用した観光産業を推進しつつ、越生梅林等の観光資源を活かして、豊かな自然環境の保全と調和を図りながら発展するものと思われる。

平成 17 年 1 月 20 日作成